菅生中学校区地域教育会議ニューズレター（7）　　１９９６年　３月７日

とらいあんぐる菅生

発　行：　菅生中学校区地域教育会議
編　集：　広報委員会
事務局：　菅生中学校
☎977-8787

生涯学習マップ完成！

出会う　学ぶ　手をつなぐ

「菅生でどんな生涯学習が行われているのだろう？」と、生涯学習委員会が菅生のグループを調査し、『出会う、学ぶ、手をつなぐ』と題して冊子にまとめました。

グループの数は何と１８９もあり、その多くは公共施設を活動拠点にしています。いくつかのグループには取材をして紹介。何かおもしろそうなグループ、自然を守るグループ、スポーツのグループ・・・と実に多様な活動があることが分かります。

「いろんなところに光を当てると、地味にやっている人たちが発見でき、生き生きしてもらえる。また、取材する私たちも生き生きできるし、地域が見えてくる。今後も第２弾、第３弾と掘り起こしをして人をつなげていきたい」と委員の十文字さん。

☆冊子の問い合わせは事務局（977-8787）まで

第２回総会開催

２月１７日、土曜日の午後、稗原小学校において、平成７年度第２回総会が開かれました。当日は、あいにくの雪にもかかわらず大勢の参加がありました。

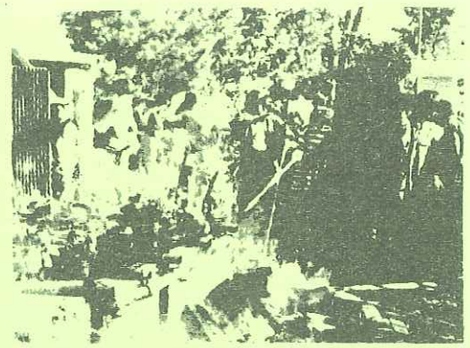
シンポジウムに引き続き、資格認定後（委任状６名）議事に入り、各委員会の事業報告、会計報告等がなされました。さらに事務局より、６月の総会までに任期満了、欠員による委員の人事の説明がありました。住民委員募集については事務局まで。

［ｐ２～３］パネルディスカッション〈親に求めるもの〉
［ｐ４］野焼き土器づくりを体験（稗原小）、菅生の野鳥をウオッチング（菅生小）、お知らせ

お知らせコーナー

野焼き土器づくりを体験

稗原小学校



子どもと父母と教師が共に活動し、ふれあいの心を育てる「親子ふれあい活動」が活発です。その一つが昨年10月に行った６年生の「野焼き土器づくり体験」です。高津区の『多摩川野焼き土器作り会』の方々に指導していただきました。「土器にひびが入って、何回も何回も作り直した」「網の上に私の野焼きがのったとき、ドキドキした」「おじいさん方のアドバイスでとてもいい作品ができた」など子どもたちは貴重な体験の様子を作文に書いています。野焼きの会の小川会長さんから子どもたちへ次のようなお手紙をいただきました。「皆さんに野焼き土器づくりを喜んでいただけて大変嬉しく思います。とてもうまく焼けて、皆さんによい思い出ができたのでおじさんたちも喜んでいます。これからもこのようなお手伝いを続けていきたいと思っています」。世代を越えた交流もできたようです。

菅生の野鳥をウオッチング

菅生小学校

３月３日の日曜日、自然観察指導員の塩入さんと本郷さんを講師にお招きしてバードウオッチング会を催しました。子どもが21名、保護者6 名、教職員など5 名の大勢で、蔵敷交差点から平瀬川沿いに、北部市場脇の湧き水までの１ｋｍほどのコースをゆっくりと歩きました。暖かな日差しの中、子どもたちは「あっ、セグロセキレイがいた」などと歓声を上げながら双眼鏡を熱心にのぞきこんでいました。「あれはホウジロだ」「あのカラスは、ハシボソカラスだよ」とびっくりするほど詳しい子どももいました。観察された野鳥は、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、キジバトオナガ、ハシボソカラス、ハシブトカラス、ツグミ、シジュウカラ、キセキレイ、セグロセキレイ、ホウジロ、オオタカでした。

部活は小学校で　卒業式は大学で

菅生中学校

体育館の改築工事のため、菅生小、稗原小の体育館で部活動を行っています。中学生にとって久しぶりの小学校の体育館は小さく感じられることでしょう。また、卒業式、入学式は聖マリアンナ医大講堂で行われます。

【卒業式／入学式日程】

○卒業式	菅生中学校	３月１１日
	菅生小学校	３月２２日
	稗原小学校	３月２２日
○入学式	菅生中学校	４月　５日
	菅生小学校	４月　５日
	稗原小学校	４月　５日

《司　会》横田智次（市教委指導主事）

《コーディネーター》田中喜美子（「ワイフ」編集長）

《パネリスト》渡邊慶子（稗原小Ｔ）工藤文比古（菅生小Ｐ）
吉原一幸（菅生中Ｔ）金子　進（菅生サッカークラブ監督）

パネルディスカッション

親に求めるもの

～みな学校に頼りすぎていませんか～

２月17日（土）午後、生涯学習委員会主催のパネルディスカッションを稗原小で行いました。主な発言をまとめると...

子ども同士の関わり少ない？

○渡邊氏　：子どもたちが年々変わっていくような気がする。人とのコミュニケーションがとりにくい。友だちより大人に寄り添う傾向があるようで低学年では教員にスキンシップを求めてくる。高学年の子は自分で決めることができず、人に頼る傾向が強いと思う。今の子どもたちは、人との関わりをもつ機会が少ないのではないだろうか。また、大人が先回りして口出ししすぎて、子どもに考える間を与えていないのではないかと思う。

学校の役割、家庭の役割を明確に

○工藤氏　：子どもにとって家庭は大人への自立を促す場、アイデンティティを確立する場である。親と子どもは双方に教えあうもの。学校は友だちと遊ぶ場、基礎の体力・学力をつをつける場、集団の中で自己を確立する場と考えている。親に求められることは、子どもと遊び、体験を共有することではないだろうか。学校はできること、できないことを明確にすることが必要。一人ひとりの個性を伸ばすことが学校でほんとに出来るのかどうか疑問である。

親の愛情を求める子どもたち

○吉原氏　：菅生中が荒れていた89年に赴任、部活に力を注いだ。野球部は全国第３位に輝き、子どもたちは「やれば出来る」という実感をもったと思う。神奈川新聞(12/19) によると県下のいじめ件数は、小学校64.5% 、中学校90.9% 、高校45% とある。『ふれあい委員会』の昨年の調査では「現在いじめられている中学生」が15.3% いる。体が大きく動作が遅い子がいじめられやすいという。いじめられていた子が大きくなっていじめ返すというケースもある。親の愛情を求めて悪いことをする子もいる。

「成績」のないサッカークラブ

○金子氏　：スポーツも勉強も苦手の子どもたちを集めてサッカーをやっていた菅生小の教師の後を引き継いだ。地域のサッカーには「成績」がない。ある公式試合で、「No-MAKE 」というチームに出合った。No-MAKE はすがお(素顔＝菅生)という意味。サッカーをやっていた子どもたちが現在もサッカークラブをやっていることを知り、感動した。

フロアーから　－提案・質問・要望etc

○高校生　：日本人は皆同じがいいという性質。一人ひとりが得意な分野をもつようにすることも大事ではないか。

○母親　：若くして子どもを生んだが、世間の目は冷たい。このような場で発言しても陰でのバッシングがある。親の中にあるステレオタイプな意識を変えていかなければならないのでは。

○教員　：高校生の発言が本質をついている。一人ひとりの違いを認めることを大事にしなければと思う。

○母親　：「大人に擦り寄っていく子は良くない。親に問題あり」という観念的な判断に陥らないようにしてほしい。

○学童保育職員　：子どもが集中・熱中できるように大人は考えることが必要。

甘やかすのではなく甘えさせて

○田中氏　：投稿誌『わいふ』には生の声が届く。子どもの状況が『働く女性の子育て論』（88年新潮選書）を書いた当時と同じである。幼児化、子ども同士がコミュニケーションできない。つまり、子どもの生きる力が衰えている。母親の対応が小１から小６まで変わらない。就学までに家庭でやることは、自立させることと愛の力で人と連帯できる子にすることではないか。日本では「まだ小さいんだから」「子どもなんだから」と伝統的に甘やかしてしまう風潮がある。脅しごまかし、泣き落とし、甘やかし、手出し、口出し、弱腰、ほったらかしの子育てによって、大人の言うことを聞かなくていいんだという子どもができる。その子たちが学校へ行くと、先生たちは体罰を与えるしかない。最初の子育てを変えなければならない。一方、ＴＶの中には人の欠点を笑い、困っているのを面白がり、大勢で一人をいたぶるなど、子どもたちに「いじめ」を仕込んでいる。ＴＶが子どもの心を破壊し、深く考える力を奪っている。幼児期に、人を罵ったり、危険なことをしたり、行儀の悪いことをしてはいけないことを教える。お金や物を与えることが子育てではない。子どものサインをきちんと受け止めしっかりと子どもに向き合うことがとても大事ではないか。甘やかしてはいけないけれど、甘えさせてあげてほしい。

子どもの成長に大切な地域活動

○横田氏　：79年発行「子どもの発達と教育」という本に菅生こども文化センターでの親の活動が紹介され、「子育ては地域社会の責任である」とある。地域が動いている所は学校も変わると実感している。地域活動は子どもの成長にとって不可欠のものと思う。

～～～感想から～～～

「人間関係を大切にしながら子どもと共に育っていきたい」「愛されているという実感を子どもがもてることの大切さを感じた」「先生たちの本音が聞きたかった」「親が人間として自立することが子育てに求められるのでは」「学校は公共の場。家庭がスタートで最後に帰る所」